

Ⅲ 総括

1. 全体考察

■ 回答者について

性別については、男性が43.8%、女性が55.5%となっています。年齢については、70歳以上が約30%と高くなっています。家族構成については、全体の約50%が「核家族世帯（親と子ども）」となっています。加古川市での居住年数については、全体の約70%が「20年以上」となっています。

職業については、「会社員、公務員」が約30%、「無職」が約20%となっています。通勤・通学している人の通勤・通学先については、全体の約30%が加古川市内となっています。また、通勤・通学の交通手段として約30%は「自動車」を利用しています。

■ 定住意向と加古川市に対する誇りや愛着について

全体の約70%が「現在の場所に住み続けたい」と回答しています。男女ともに、若年層よりも高齢者層のほうが「現在の場所に住み続けたい」の割合が高い傾向がみられます。居住地区別にみると、加古川、野口、加古川西では「現在の場所に住み続けたい」が70%以上と高くなっています。

市内の他の場所や市外に移りたい人が転居したい理由については、「通勤、通学に不便である」、「景観・まちなみに魅力が少ない」、「買い物環境が充実していない」などが上位に挙がっています。

加古川市に対する誇りや愛着の程度については、約70%が「感じる」（「感じる」と「やや感じる」の合計）と回答しています。

■ 心ゆたかな暮らしについて

「幸福度（問4）」は平均6.89点、「5年後の幸福度（問5）」は平均6.52点となっています。

「現在住んでいる地域の暮らしの満足度（問6）」は平均6.26点、「町内（集落）幸福度（問7）」は平均6.02点となっています。

問8の①～⑨の設問について、“あてはまる（「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」の計）」をみると、「②暮らしている地域は、医療機関が充実している」、「④暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない」、「⑥自宅には、心地のいい居場所がある」、「④私は、精神的に健康な状態である」、「④将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい」は60%を超えて特に高くなっています。

“あてはまらない（「あまりあてはまらない」と「全くあてはまらない」の計）」をみると、「⑦自宅の近辺では、騒音に悩まされている」、「⑩私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある」、「⑤私は、見知らぬ他者であっても信頼する」、は50%を超えて特に高くなっています。

■ 市の政策に対する満足度・重要度について

満足度のスコアをみると、「水道水の供給」、「下水道の整備」、「消防や救急・救命体制」などが上位に挙がっています。一方で、「バスの便利さ」、「地域特性を生かした土地利用」、「ポイ捨てやペットのふん害防止」、「観光の新興」などのスコアが低くなっています。

重要度については、「安心できる医療体制」、「消防や救急・救命体制」、「地域の防災体制」などが上位に挙がっています。

重要度が高いが満足度が低い項目（重要度が平均以上かつ満足度が平均以下の項目）としては、

「教育を支える体制や学習環境」、「結婚・出産・子育て支援」、「特別支援教育の内容」、「大気や水質などの環境対策」、「生活道路の安全性や便利さ」、「障がい者に対する支援」、「青少年の健全な育成」、「就業機会確保や働き方改革推進」、「幹線道路の整備」、「高齢者に対する支援」、「地域福祉の推進」、「ポイ捨てやペットのふん害防止」、「行政の効率化」、「地場産業の振興」が挙げられます。

■ 防災対策・防犯対策について

防災対策については、「家庭として取り組んでいるものがある」「何も取り組んでいるものはない」がそれぞれ約40%となっています。

防犯対策については、「家庭として取り組んでいるものがある」が約40%、「何も取り組んでいるものはない」が約30%となっています。

■ 子育てと仕事に関することについて

加古川市が子育てしやすいまちだと感じるかについては、「感じる」（「感じる」と「やや感じる」の合計）と「感じない」（「感じない」と「あまり感じない」の合計）がそれぞれ約50%となっています。性年代別にみると、60歳代の男性で「感じない」が60%以上と高くなっています。居住地区別にみると、志方、両荘で「感じない」が60%以上と高くなっています。

子育てと仕事の両立について理解が進んでいると思うかについては、「感じる」（「感じる」と「やや感じる」の合計）と「感じない」（「感じない」と「あまり感じない」の合計）がそれぞれ約50%となっています。性年代別にみると、60歳代、70歳以上の男性、60歳代の女性で「感じない」が60%以上と高くなっています。居住地区別にみると、加古川北、両荘で「感じない」が60%以上と高くなっています。

■ 協働のまちづくりについて

市民活動の参加状況については、参加している人が約15%となっています。性年代別にみると、30歳代、50歳代の女性では参加している人が1割以下となっています。居住地区別にみると、加古川西では、参加している人が20%以上と高くなっています。

市民活動への参加意向については、「参加したい」（「ぜひ参加したい」と「機会があれば参加したい」の合計）が約50%となっており、現在は参加していない人の中にも、参加意向のある人がいることがわかります。性年代別にみると、18・19歳の男女と、20歳代、50歳代の女性では50%以上が「参加したい」と回答しています。

■ 市政などに関する情報について

市政に関する情報の入手方法については、「広報かこがわ」が80%以上と高く、「町内会の回覧など」が約50%で2番目に高くなっています。「市政に関する情報は入手していない」は全体の4.8%となっています。性年代別にみると、「広報かこがわ」、「町内会の回覧など」、「新聞」は男女ともに、年代が上がるにつれて高くなる傾向があります。また、18・19歳、20歳代の男女、30歳代の男性では「市政に関する情報は入手していない」が10%以上と他の年代に比べて高くなっています。

加古川市の取組等の認知度については、「見守りカメラ」、「棋士のまち加古川」、「みとろフルーツパークのリニューアル」が50%以上と高くなっています。性別にみると、「子育てプラザ」、「かこてらす」「かこがわウェルビーポイント制度」「みとろフルーツパークのリニューアル」は男性に比べて女性のほうが10ポイント以上高くなっています。